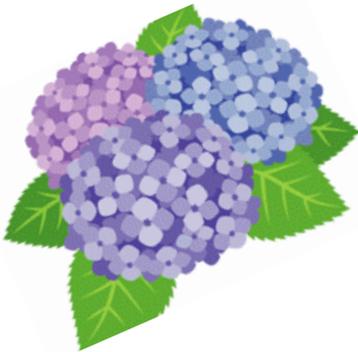




# TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部  
国際センター ニュースレター

Vol. 19 Summer, 2013



パーティーで友人と一緒に(本人左)

## 1. Hello from All Corners of the World!

今号では、卒業後に海外の大学院に進学した3名の卒業生を紹介したいと思います。まず一人目は、在学中にフィンランドのラウレア応用科学大学に交換留学をし、現在は南アフリカのネルソンマンデラメトロポリタン大学で日本語を教えながら、大学院で学んでいる中尾 昂世さん。二人目は、在学中はタイのバンコク大学に交換留学をし、その後バンコク大学大学院に進学。就職活動のために卒業を来年まで延期したものの、見事日本企業に就職が決まり、入社後はバンコクに外向が決まっている作林 光明さん。そして、三人目は、在学中にアメリカのセント・トーマス大学に交換留学をし、現在はフランスのビジネススクール・ESCEのMBAプログラムで学んでいる山本 雄仁さんです。彼らは入学時点から他の学生とは違う、特別な存在だった訳ではなく、自分の夢に向かって努力をすることで道を切り開いていった卒業生たちです。多くのOGU生が彼らの後に続いてください!

た か よ

### 中尾 昂世 (2011年外国語学部卒業)

**南** アフリカに来てから早10ヶ月(2013年4月現在)が経ちました。ここポートエリザベスは自然が豊かですが、とても近代的で、比較的安全な街です。ヨハネスブルグなどの大都会に比べ、親切で、気さくな人が多いように思います。ワールドカップの開催後、様々な報道もあり、南アフリカは「犯罪大国」というイメージを持つ人も多いと思いますし、事実、犯罪の発生率は日本とは比べ物にならないくらい高いですが、ルールさえ守っていれば犯罪に巻き込まれる事はありません。「南アフリカに興味はあるけど治安が…」と思っている学生がいたら、あまり神経質になり過ぎないでほしいです。

南アフリカは、公用語が11言語もあり、そこからも分かるように様々な文化が入り交じったとても興味深い国です。世界で唯一アパルトヘイト政策を施行した暗い過去を持つ国であり、黒色人種がどのようにこの辛い時間を生き延びてきたのか、世界の裏側では何が起こっていたのか、また起こっているのかを知る良いチャンスにもなると思います。国際事情や国際協力などに興味のある学生にも、そうでない学生にとっても、南アフリカでの生活は貴重な経験になること間違いなしです。

今、私はネルソンマンデラメトロポリタン大学で日本語を教えながら、応用言語学修士号取得に向け日々研究をしています。OGU在学中は外国語学部にも所属し、フィンランドのラウレア応用科学大学に2学期間の交換留学にも行きました。でも、もともと勉強が大嫌いで、OGUに入学した当初は「What's your name?」と聞かれて、「My name is Takayo.」と答える事も出来ないほど英語が出来ませんでした。同じく



大学スタッフと大学院の友人と(本人右端)

ラスの学生たちが外国人教員たちと英語で格好よく話している姿を「すごいな～」と思って見ているだけでした。それでも、「せっかく英語を専攻しているのだから話せるようになりたい!!」と思い、積極的にI-Chat Loungeに通ったり、留学生と遊びに行ったりしているうちに、少しずつではありますが、英語が話せるようになり、最終的には在学中に交換留学にも行くこともできました。あの時を振り返ると、自分がこうして海外の大学院で勉強しているなんて、まさに夢のようです。

OGUIには交換留学という素晴らしいプログラムがあります。「留学」、「英語」、「外国」などと聞くと、初めは遠い世界のように思うかもしれませんが、実はそんなに遠くにあるものではありません。あなたが一歩踏み出せば、すぐそこにある世界なのです。海外での勉強や外国語でのコミュニケーションには、かなりの困難が伴うかもしれませんが、その経験が後の人生で必ず役立つと思います。ぜひこの素晴らしいチャンスを自分のものにし、新しい一歩を踏み出してください。応援しています。

### 目次:

<b>Hello from All Corners of the World!</b>	1-3
留学に向けてのモチベーションアップ	3
<b>I-Chat's Doctor English Program</b>	4
第3回 "Inspire Me!"	4
私のおススメ in Thailand	4



さくばやし みつあき

## ■ 作林 光明 (2009年国際学部卒業)



バンコク大学の卒業式で  
(本人右から2人目)

**今**、僕は、タイ行きの飛行機の中でこの文章の最終チェックをしています(2013年4月)。今回の訪タイが留学生生活の最後だと思うと、少し寂しいです。しかし、「寂しい」と思えるということは、それが“幸せな留学”だったからだと思います。

タイに交換留学に行く前の僕はといえば、大学の講義に出席し、休み時間は本を読み、講義が終わったら帰宅することを繰り返す平凡な毎日を送っていました。ひよんなことから、後輩にタイのボランティア研修に誘われ、「今、行かなかったら、こんなチャンスは二度とない」と思い、勢いで参加しました。1週間ほどの滞在でしたが、タイの暑い気候、辛い料理、人の優しさ、自由と危険が入り交じった街の雰囲気、そのすべてに惹かれました。

帰国後、「タイについてもっと学びたい」と思い、1年後、周りの同級生がリクルートスーツを着て、企業訪問に飛び回っている中、僕はタイのバンコク大学に2学期間の交換留学をしました。そして現在まで、大学院も含め計4年近くもタイのバンコクに滞在しています。なぜ大学院まで行こうと思ったのかと言うと、とにかく悔しかったからです。交換留学中は本当に何もできませんでした。話せない、聞けない、読めない、書けない、モテない、の五重苦でした。

しかし、人間不思議なもので、4年間も勉強を継続するとそれなりに真面目になり、英語で

ゆうじん

## ■ 山本 雄仁 (2011年経済学部卒業)

**現**在、私はフランスのパリにあるビジネススクールESCEの修士課程でインターナショナルマーケティングを専攻しています。そこで、今日は皆さんに、学業、インターンシップ、そしてパリでの生活についてお話ししたいと思います。

まず、学業についてです。私は現在ESCEで、2年間の修士課程英語コースで学んでいま

専門科目を勉強できるまでになりました。大学院では、学部で学んだタイについての幅広い知識がビジネスに役立つと思い、バンコク大学のMBA(経営学修士)プログラムでマーケティングを専攻しました。

留学当初はクラスメートや教授の顔など一切見ることができず、メモとにらめっこをしながらプレゼンをしていた僕ですが、日本語なまりの英語の発音はともかく、今ではメモはお尻のポケットにしまってプレゼンができるようになりました。僕のプレゼンについて印象深いコメントをくれた人物が2人います。1人は、僕より英語ができない中国人の大学院生から、「僕は全く英語ができないけれど、サクのプレゼンだけは良く理解できる。僕もサクみたいなプレゼンがしたい」と言われたこと。もう1人は、普段から院生を滅多に褒めない、恐いイギリス人の教授から、「サクバヤシ…ミツアキ…君のプレゼンはわかりやすい。テキストだけでなく他の資料も積極的に引用し、また理論がしっかりしている。Excellent!」と言われたのです。全く違う2人の人物から褒められたことで、大袈裟に聞こえるかもしれませんが、4年間の努力が報われた気がしました。

しかし、4年間の留学で得たものは、英語でプレゼンができるようになったことだけではありません。国籍、年齢、性別、宗教が違う仲間たちと、“授業中にグループワーク”をし、



大学院のクラスメートたちとの旅行  
(本人後方左端)

す。このコースでは最初の3学期は学校で授業を受講し、残りの1学期はインターンシップをするというカリキュラムになっています。フランスのビジネススクールで、英語で専門科目を学んでいるため、正直言うと、英語で学ぶならやはり英語圏の大学院を選んだ方がよいなと思うこともありますが、日本人が少ない環境で学ぶことにより、自分にとっては周りの

“学外でも楽しく遊ぶ”ことにより「人間力」を養ったことです。「やるときはやる、遊ぶときは遊ぶ」という考え方ではなく、研究と遊びの境界線を持たず、毎日すべてのことを全力で前向きに楽しんで取り組むことができるようになり、「なんだ、勉強も遊びと同じじゃないか」と少し肩の力を抜けるようになりました。

しかし、卒業間近になり、気がつけば28歳。親の脛を齧るというよりも、しゃぶり尽くした学生生活を過ごしたため、正直、日本での就職活動はかなり不安でした。しかし、自分の長所に「自信と根拠」をしっかり持って、その長所を入社してから、どのように活かすのかを常に自問自答し、自分から人事の方と積極的に話した結果、日本企業の工作機械部品メーカーから内定をいただきました。日本の本社採用ですが、日本で数ヶ月の研修をした後、タイの事務所に向かう予定です。

4年前、僕が初めてタイを訪れた時、タイと日本は、ビジネス・文化の面ではすでに関係が深かったですが、現在、両国の関係はさらに深まっており、ビジネスの面だけを見ると、タイに進出している日本企業は数千社にも上ります。だからといって、“就職のために”タイへ留学することを僕はお勧めしません。自分の留学を想像したとき、ワクワクする国を選んでください。

タイへの留学は、想像より厳しいですが、主体的に動けば、必ず大きな収穫があります。タイに留学して苦しいことがあったとしても、悲観的になって落ち込まず、ワクワクする心を大切にして、目標に向かって邁進してください。

皆さんが僕の文章を読んで、「タイって面白そうだな、行ってみようかな」と思っていただけなら嬉しいです。いつかタイでお会いできるのを楽しみにしています。



エッフェル塔の前で友人たちと  
(本人後方右端)



学生から学ぶことも多く、成長することもできます。また、残念ながら授業の質もそこまで高いとは言いきれませんが、これまで数えきれないビジネスについての知識や理論を学びました。これはあくまで私の個人的な意見ですが、周りが日本人ばかりの日本の大学院を選ばず、国際的な環境に触れられるフランスの大学院を選んで良かったと思っています。

2013年の1月からカリキュラムの一環として、パリにある会社で6ヶ月間のインターンシップをしています。業務は英語もしくはフランス語で行います。批判をする訳ではありませんが、仕事をする中でフランス人のポスのビジョンやオーガナイズスタイルは度々理解に苦しみます。でも、将来、他国籍の人々と働く時に経験するであろうことを、このトレーニング中で感じ、触れられたことはとて

も大きな収穫だと思っています。

次に、私の住んでいる街、パリについてですが、私はこの街が大好きです。街並もとてもシックで、食べ物、飲み物もおいしく、住むには最高の街だと思います。しかし、サービスの悪さは一級品です。日本で生まれ育った私には理解し難いことが多々あります。パリに来る前まで温厚だった私も、パリに来て少し短気になったように感じます。

最後に、ここ数年、日本の鎖国化が進んでいると言われてはいますが、なぜそうになっているのか、私はとても不思議に思います。なぜなら、他のアジア諸国はどんどん国際化が進んでおり、この調子だと追いつき、追い越されるのも時間の問題ではないでしょうか。日本人が以前のように世界で活躍するためには、まず日本を飛び出し、自分の目で世界を見るこ

とです。初めから長期留学をする自信がないと言う学生でも、OGUの国際センターでは、様々なプログラムを提供しています。国際センターを上手く活用し、10年後、20年後、あなたが世界で活躍できる人材になるであろうことを心から願っています。



パリのセヌ川にかかる橋ポン・デ・ザールの上で友人と(本人左)

## 2. 留学へのモチベーションアップ ~ Emma Perolainen

今年の1月から国際センターでインターンをしていたエンマが、5月の外国語学部合同ゼミにおいて、なぜ海外留学が価値のあるものなのか、なぜ今すべきなのかというプレゼンテーションをしてくれました。ここでは、その要約を掲載したいと思います。彼女が日本で生活し、OGUで学生生活を送る中で感じた生の声です。今後、留学を考える上でぜひ参考にしてください。



国際センターで(本人右)

れを読んでいる皆さんの多くは、一度は海外に行ったことがある、すでに留学に行ったことがある、もしくは行きたいと思っているかもしれません。私はこの記事を通して、皆さんに留学や海外経験を勧めたい、少しでも留学のことを考えている人を励ましたいと思っています。

私の名前はエンマ・ペロライネンです。2012年9月からOGUに交換留学に来て、1月から6月までの5か月間、国際センターでインターンシップをしました。今回、私が日本に留学に来たのは、日本語をもっと勉強したかったのと、高校時代に10ヶ月間の日本留学をしたので、もう一度日本で長期間生活したかったからです。また、フィンランドと日本は、すごく似ているところも、全然違うところもあるので、それをもう少し詳しく経験したいと思っていました。そして、自分が慣れた環境から出て、違う場所に行き、成長したかったのです。

留学といえば、もちろん勉強が大事です。

留学したら、これまでより宿題が多くなったり、学校で過ごす時間が増えたりするかもしれませんが、まず、留学したら言語の勉強をしなくてはなりません。なぜなら言葉が通じないと外国で生活するのは難しいからです。現地で外国語を勉強すると、使う機会が多くなるので、言葉が記憶に残りやすいと思いますし、実際の様々なシチュエーションで会話することができるのも良いと思います。

でも、学校で学ぶのは言語だけではなく、現地の文化を学ぶのも大事です。留学は勉強だけではないです。新しい人と出会ったり、友達を作ったり、外国でのネットワークを広げたり、新しい場所に行ったり、観光したりできます。現在、実家に住んでいる学生が多いか少ないかはよく分かりませんが、外国に一人で行ったら独立心も養えますし、自分で行動も意思決定もしやすくなります。また、その中で、自分がしたいことや自分に大事なものはっきり見えるようになり、自分の本当の性格も分かるようになります。人としてすごく成長できる経験です。

留学は自分のためにします。親や国際センターのスタッフにいくら言われても、自分から行きたいと思わないと何の意味もないと思います。自分の将来のために何かしようと思うなら、留学に行ったほうがいいです。外国語能力はこれからもっと必要になりますし、良い仕事に就きたいならやはり外国語能力は必

要です。また、留学で出来た友達や国際的なネットワークがあれば、就職やプライベートにも役立ちます。

ここまで言っても、留学に行きたくない学生は多いと思います。費用が掛かるから行けないと思う学生もいます。でもそういう学生には、経験に値段はつけられないと言いたいです。留学に充てるお金を日本で遊んで使う方法もありますが、留学でそのお金を使ってはどうでしょうか。外国は怖いというイメージを持っている学生もいるようです。でもそういう自分の不安を乗り越えたら、すごく自信がきます。自信さえあれば何でもできるようになります。日本は危険なことが少ないかもしれませんが、北欧も少ないので、北欧への留学をお勧めします。留学に行きたくない最後の理由は、日本が一番だということではないでしょうか。でもそれはちょっと言い訳ではないかと思います。一度も日本を出たことがなかったら、そんな事は言えないと思います。母国を出て、実際に外国で生活したことがないので、どうして日本が一番だとわかるのでしょうか。

私は、留学に来て、憧れの日本に来て、自分の国や日本の良い所、そして自分に合うところ、合わない所が見えるようになりました。留学は今のうちに行くべきだと思います。就職したらそんな時間はなかなかないですから、皆さんに今の機会を上手に使って欲しいです。

(本人執筆)

### 3. I-Chat's Doctor English Program

以前に人気を博したI-Chat Lounge (以下I-Chat)のDoctor Englishが戻ってきました！このプログラムでは、OGU生が英語のネイティブスピーカーの教員から個別のサポートが受けられ、学びたいピックや必要なスキルを自分で選ぶことができます。

I-Chatは、学生たちが将来の夢を実現するために必要なスキルを身に付けるお手伝いをします。TOEICのスコアを伸ばす、英語の宿題のサポート、就職活動の準備、あるいは英語でのプレゼンテーションや面接の練習など、ニーズは個々の学生で異なりますが、このDr. Englishは、どの学生も自分が目標としているゴールに早く到達できるようにサポート

します。さらに、I-Chatのミッションの一つは、英語でコミュニケーションが取れる能力を強化することです。Dr. Englishは、特定の学部

の学生だけでなく、語学能力を高めたいと思っているすべての学生を対象として、英語でのコミュニケーション能力を高めるサポートをします。Dr. Englishの30分間のセッションは、1週間に3回、火曜日、水曜日、金曜日の午前中に実施されています。学生は予約をする時に、何を目標にしているのかを明確にすることで、Dr. Englishがニーズにあったサポートをすることができます。30分間のセッションでは、学生はそれぞれに合った個別のサポートが受けられ、強化が必要な分野を集中的に学ぶことができます。また、学生たちは最後に「処方箋」を受け取り、Dr. Englishから宿題が出されます。次回、この宿題をチェックすることで、スキルが強化されていきます。

Maxというあだ名を持つ四谷 壮宏君は、ホスピタリティ経営学科の学生です。彼がDr. Englishを利用している目的は、TOEICのスコアを上げること、特に文法を学ぶことです。「TOEICを受験した時に、文法をもっと勉強しないとイケないと気づきました。1週間に1度

Dr. Englishを利用し、英語力向上にとっても役立っています」とMaxは述べています。Maxは、キャンパス内で提供されるリソースを有効活用しながら英語力を伸ばし、将来の夢を実現しようとがんばっている学生の良い例ではないでしょうか。

経済学部の4年次生原 明日香君は、日英・英日の通訳になるという夢に向かって準備をしています。「通訳になるために必要不可欠なビジネス英語と語彙を学ぶためにDr. Englishを利用しています。自分が学びたいピックを選び、先生と一対一で勉強できるところが気に入っています」と彼はコメントしています。

目標を定めることやその目標に向かって努力をすることは、学生たちの今後の人生でも必要なスキルです。そのスキルを習得する機会が多ければ多いほど、学生たちの夢は現実へと近づいていきます。I-ChatはOGUの扉をくぐったすべての学生たちが、夢を実現できるようにサポートすることをミッションとして掲げています。Dr. Englishは英語に関するすべてが学べるOGU独自のリソースです。このプログラムは学生たちからも継続してほしいという要望が多いため、後期にも実施を予定しています。

### 4. 第3回 “Inspire Me!”

Inspireという単語の意味を知っていますか？“You always inspire me to move on.”(君はいつも僕に前進する力をくれる)とか、“His words inspired me to study English.”(彼の言葉が英語を勉強するきっかけになった)のように、人に元気を与える、やる気にさせるというような意味があります。

国際センターでは、在学生たちが新しいことに挑戦するきっかけやパワーを得てほしいという願いから、3年前から世界規模で活躍する若いアーティストをお招きするイベント“Inspire Me!”を開催しています。

今回3度目となるこのイベントには、関西で活躍する劇団「National Theater of Young Artists」をお招きし、英語でミュージカル“オリバー！”の一部を上演していただきました。本学の英語講師でもあるセオドア・ステックラー氏が地域に根ざしたインターナショナル・ユースシアターを目指して2010年に設立したのが、この「National Theater of Young Artists」です。劇団では6歳から25歳までの若きアーティストたちが、英語で歌、ダンス、演技を学び、世界で通用するアーティストになることを目指しています。彼らはまだ世界規模で活躍している訳ではありませんが、その語学力、演技力、歌唱力のレ

ベルの高さに、会場を埋め尽くした観客からは惜しみない拍手が送られていました。

世界的には、日本人は英語が苦手と思われていますが、本当にやりたいこと、話したいことがあれば、誰でも英語が話せるようになるのだということを改めて子供たちから学んだような気がしました。今回の“Inspire Me!”を通して、学生たちが新たな目標を見つけ、前進するパワーを得たであろうことを期待します。



(上) アーティストたちと演出家のステックラー氏(後方右端)  
(下) オリバーを演じるヤングアーティストたち



### 私のおススメ in Thailand～平岡 佐友里

タイは年間を通して非常に暑いため、少しの距離でも歩くと疲れてしまいます。そんな時におススメなのが、トゥクトゥク(Tuktuk)！トゥクトゥクとは三輪タクシーの事で、大きいものだと8名ぐらい同時に乗車出来ます。吹きさらしなので、スピードを出して走っている時は本当に気持ちが良いです。タイの道路はよく渋滞するのですが、トゥクトゥクは渋滞で止まっている車の間を器用に走り抜けていきます。それが、すぐスリリングで楽しいです。乗車料金も非常に安いので、タイに行ったらぜひ一度は乗ってみてください！ただし、高額な料金を提示してくる場合もあるので、そこは注意が必要です。(国際センタースタッフ)



### 大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号  
TEL: 06-6381-8434 (代表)  
FAX: 06-6381-8499  
Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。  
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>